

その1

古賀市の水道が始まったきっかけ

昭和20年代の半ば古賀町(今は古賀市)の人々は、井戸の水を飲み水に利用していました。まだ下水道が整っていなかったため井戸の水が次第に汚れ、やがて人々はその水を飲むことができなくなりました。そこで、飲み水にできる所の水を汲みに行くなど、毎日の暮らしに大変困るようになりました。



そのため、大変な暮らしをしていた人々は、古賀町役場に「水道を作ってください」とお願いをしました。町役場は、人々が安心して水を飲めるように、新しく大きな井戸を掘り、水道を引きました。こうして、今の私たちが使っている水道ができたのです。

※昭和32年4月(1957年)、現在の古賀市役所の近く(花鶴ヶ丘)に浄水場ができました。

その後、昭和49年10月(1974年)現在の浄水場(筵内区)に建てかわりました。

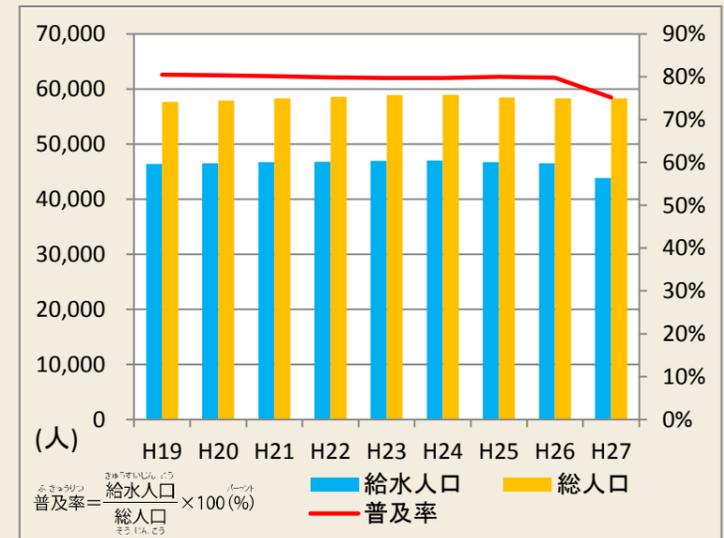


その2

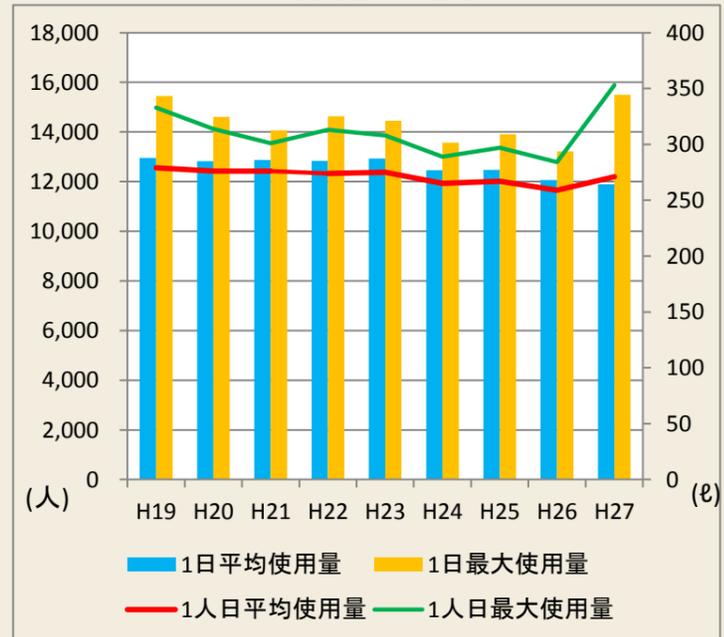
数字に見る古賀市の水道

古賀町は昭和30年、旧古賀町、青柳村、小野村が合併し、人口18,309人で発足しました。そして、平成9年10月に市政施行を行い、現在の古賀市となり当時の給水人口は41,662人でした。平成27年度末の給水人口は43,838人に達しました。平成27年度で米多比区等の一部を給水区域に編入したこと等を基に、平成35年までの給水人口は52,500人を推定しております。

人口と給水人口推移、普及率の推移



使用水量の推移



1日平均給水量は平成19年度の12,949 m³をピークに減少傾向に転じ、平成27年度では、11,899 m³となっております。また、市民による1人1日平均使用量も、市民の節水意識や節水器具の普及により、平成19年度の279ℓをピークに微減し、平27年度では271ℓとなっております。